

おだがいさま

odagaisama

第34号
平成23年5月15日発行

平成23年度事業計画・予算概要(P2~P3)

東日本大震災特集(P4~P6)

寄附情報・コラム(P6)

鶴岡から被災地へ

気持ちを届けたい！

「絵手紙作戦」の実施



東日本大震災において被害に遭われた方々、
ご家族の皆様に心よりお見舞い申し上げます。

鶴岡市ボランティアセンターでは、東日本大震災で被害に遭われた方々に、絵手紙で思いを伝えるため、4月9日(土)に「絵手紙作戦」を企画し、22名の方から参加をいただきました。

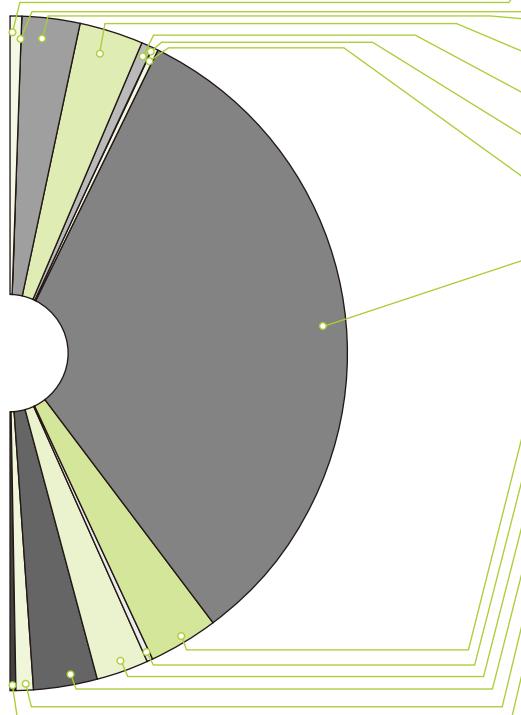
ふきのとう、つくしなどの春の草花の絵にメッセージを添えて、約40枚の絵手紙が完成しました。

今後、被災地支援ボランティアを通して、避難所や仮設住宅などへ届けます。

年度 事業計画・予算概要

収入 2,855,323 千円

計 予 算 >



《特別会計予算》（就労継続支援事業）

収入予算：112,790 千円 支出予算：89,955 千円

《特別会計予算》（地域包括支援センター事業）

収入予算：81,081 千円 支出予算：81,081 千円

平成二十三年度事業計画



「地域福祉活動計画」策定における
住民福祉座談会の様子

市制定の「地域福祉計画」と連動し、行政における地域福祉関連施策との整合性を十分検討して民間の立場から補完しながら「地域福祉活動計画」を積極的に推進します。

今年度、重点的に取り組む事業と各部門の基本方針等についてお知らせします。

【平成二十三年度 重点事業】

一 「地域福祉活動計画」の推進

地域・社会福祉関係機関と相互に連携しながら「地域福祉活動計画」を積極的に推進します。

五 福祉人材の育成と職員の資質向上

福祉・介護に理解と意欲のある人材を育成するため、2級ヘルパー養成講座を年二回開催するとともに、福祉系学生の実習研修の受け入れを行います。

また、質の高いサービス提供ができる職員を養成するため、社協内外の研修に積極的に参加させます。

二 「社協発展・強化計画」の推進

組織、事業、財務等の計画を年次的に推進していきます。今年度は、組織内部で職員の使命感とモチベーションの高揚を図りつつ、身近な市社協を積極的にPRしていきます。

三 相談体制の充実・強化

生活に困窮している方、高齢者や障がい者とその家族からの相談に対応するため、ふれあい福祉相談や市社協地域包括支援センター、市障害者相談支援センターの相談機能の強化を図り、他法人等の各相談支援窓口と連携しながら問題の早期発見と解決に努めます。

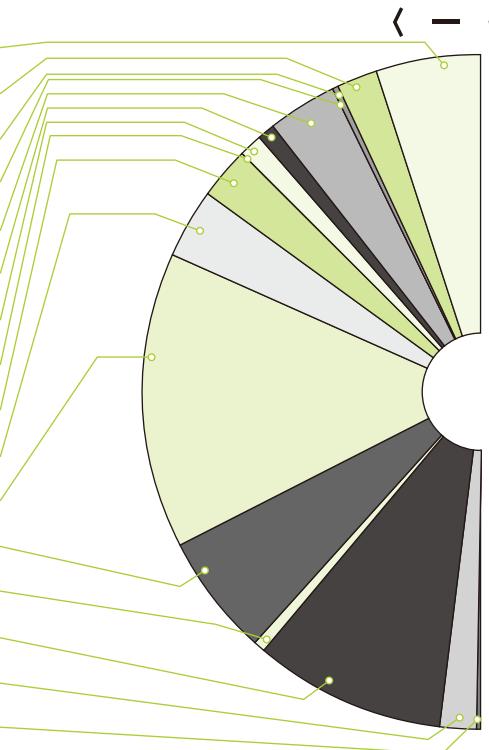
四 高齢者・障がい者福祉の充実・強化

介護サービス内容における利用者の「満足度調査」を実施し、その結果を今後のサービス内容の検討に活かします。また、障がい者福祉については、現行の就労継続支援・在宅支援サービスにとどまることなく、サービス内容の見直しと利用者ニーズへの対応を行います。

鶴岡市社会福祉協議会 平成23

支出 2,828,941 千円

本部・支部運営事業	295,815 千円	10.5%
地域福祉事業	104,745 千円	3.7%
介護予防等事業	20,791 千円	0.7%
地域福祉センターなえづ管理事業	729 千円	0.1%
保育園運営事業	184,359 千円	6.5%
学童保育所・放課後児童対策事業	44,678 千円	1.6%
児童館運営事業	59,582 千円	2.1%
在宅福祉事業	4,828 千円	0.2%
障がい者福祉事業	145,003 千円	5.1%
居宅介護支援事業	188,051 千円	6.6%
通所介護事業	802,042 千円	28.3%
訪問介護事業	327,879 千円	11.6%
訪問入浴事業	28,742 千円	1.0%
特別養護老人ホーム事業	514,883 千円	18.2%
老人短期入所事業	96,926 千円	3.4%
高齢者生活福祉センター事業	9,888 千円	0.4%



組織運営基本方針

市社協が地域住民・行政・福祉関係者から「一層信頼される組織への発展を目指して、多様化する福祉ニーズに的確に対応し、「社協発展・強化計画」に基づき、組織体制の充実強化と財務・経営基盤の安定化と着実な運営・経営に努めます。

地域福祉事業基本方針

地域課題等を住民と共有しながら、「おだがいさまのまちづくり」を目指して誰もが暮らしやすい地域づくりに努めます。特に、市社協独自事業として、「地域支え合い体制支援事業」に新たに取り組み、地域の中で孤立する住民をつくりないよう、より具体的な見守り支え合い体制の構築を住民主体活動と専門機関との連携により推進していきます。

高齢者福祉基本方針

高齢者一人ひとりが「生きがい」と「尊厳」を持つて、その人らしい生活の質を高めていく支援を実現するために、一人ひとりの利用者を理解し、ケア関係者が共通の視点を持ち支援できるように努めます。

また、サービス内容の改善に努め、利用者や住民ニーズを把握し、柔軟に対応できるサービスの開発に努めます。

児童福祉事業基本方針

子育て支援ニーズを的確に捉えつつ、地域や各世代との繋がりを大切にし、連携しながら児童の健全育成を図ります。子ども達に安全で安心な遊びの場を提供するとともに、保護者にとって気軽に育儿相談ができる場、子育ての仲間づくりの場としての機能も果たします。

障がい者福祉事業基本方針

障がいのある方や家族が住みなれた地域で安心した生活が送れるように、関係機関や各団体との連携を図りながら、社会参加と自立支援を促進します。

また、質の高いサービスを提供するため、障がい者の疾病に対する知識の習得や障がいの特性の理解に努めます。



世代間交流の様子

3.11 東日本大震災 被災地のために 今、できること

地震発生から二ヶ月が経過し、被災地では復興に向けた支援が進められています。

鶴岡市内でも震災直後から行政や市民によるさまざまな活動が行われ、市社協でも、ボランティアの登録・派遣や義援金募集などに取り組むとともに、被災地から鶴岡市内に避難されてきた方々への支援なども始めています。

災害ボランティアについて

市社協では、鶴岡市ボランティアセンター（以下「鶴岡ボラセン」）が中心となり、災害ボランティアの受付を行っています。

◇ 災害ボランティア登録

鶴岡ボラセンでは、ボランティアの派遣要請に対して迅速に活動できるよう、三月十四日から、災害ボランティア登録の受付を始めました。鶴岡市内でもボランティアへの関心は高く、四月二十日現在で二百一名の方から登録をいたしました。

去る三月三十日には、登録者を対象にオリエンテーションを開催し、約三十名の参加がありました。当日は、災害ボランティアの内容・構えの説明を行い、今後要請があつた場合の連絡体制を整えました。

◇ 災害ボランティアの派遣

鶴岡ボラセンでは、行政や関係機関からのボランティア派遣要請に対して、登録者を中心紹介を行い、多くの方が活動を行っています。

鶴岡市内での活動

震災直後は、市内での活動が中心となり、特に、市福祉課で四月十五日まで行っていた被災地や市内避難者へ送る救援物資の受付には、連日、高校生・大学生から一般のボランティアが物資の受付・仕分け・搬送などに協力し、延べ三百五十人が活動しました。

四月二十四日からは、石巻市湊地区福祉団体協議会からの要請で、毎週日曜日、震災復興ボランティア「かたづけ人」約二十名を派遣し、石巻市八幡町内の被災家屋の流入土砂撤去、家屋の清掃・洗浄等を行つ

救援物資の仕分けボランティア



「仙台にまだ残る友達のために」とボランティアをはじめた鶴岡出身の東北福祉大生

その他、被災地から市内へ避難・移住してきた方のために、住宅の清掃や引越しの手伝い、また、福島県南相馬市から休暇村羽黒へ集団避難してきた養護老人ホームの利用者に対して、看護師などの専門職が支援に当たったほか、個人ボランティアが通院の送迎や買出しなどを行いました。

被災地での活動

市社協では、四月上旬から鶴岡災害ボランティアネットワーク（以下「鶴岡災ボラ」）と連携しながら、宮城県石巻市・南三陸町などの被災地の状況確認等を行う中で、石巻市の民生児童委員からの要請を受けて四月上旬から物資運搬や土砂の撤去を始め、現地で活動できる体制づくりを進めてきました。

石巻市での活動の様子



5月15日現在で5回、石巻市へボランティア派遣を行い、約100名が活動しています。

◇ ボランティアの声

現在、多くの鶴岡市民がボランティアとして活躍しています。実際に活動を行つた方からお話を聞きました。

看護師 舟見 敬造さん

南相馬市から羽黒休暇村に避難してきた養護老人ホームの利用者の看護等の支援に当たりました。



「鶴岡ボラセンの要請を受け、退職した看護師仲間六名を集めて、利用者・職員全

ています。今後、五月末まで毎週日曜日の活動を続け、現地の状況によっては期間の延長も検討しています。なお、五月末までの活動については募集定員に達しましたが、鶴岡ボラセンでは現在も引き続きボランティア登録の受付を行っています。

員にうがいによる感染症予防から始めました。少し落ち着いた頃から、床ずれや身体機能の低下を防ぐための体操を行ったり、

演芸ボランティアをコーディネートしたことで、利用者の表情も良くなりました。利用者は『相馬野馬追』など故郷の話をすると喜んでくれました。今後、看護師の派遣要請があつた場合に活動できるよう、体制づくりも進めています。

山形大学農学部四年 山形大学三年 戸塚 紘一郎さん 同大学三年 戸塚 紘二郎さん 山形大学農学部四年 戸塚 紘二郎さん 同大学三年 戸塚 紘一郎さん



写真右 佐々木 亮祐さん
写真左 戸塚 紘二郎さん

市内で募金活動、救援物資の仕分け・荷物の積み下ろしや、宮城県名取市での炊き出し、また、鶴岡災ボラの被災地の状況確認にも同行しました。

況を見極め、その時必要とされている支援を行うことが重要だと感じました。」

戸塚さん「南三陸町に行つた際、山側にまでガレキが溜まっているのを見て、津波被害の大きさに衝撃を受けました。現地の様子から長期的な支援が必要になるということを感じました。今後、現地のボランティア受入れ体制も整つてくると思います。これから復興に向け、半年後、一年後も活動していくことが必要だと思っています。」

災害ボランティアに関するお問合せは、
鶴岡市ボランティアセンターへ
電話 ○一三五(一一)一九七〇

学区域外就学する生徒等一人につき五万円

入園支度金：避難中に本市の保育園・幼稚園等に入園する児童一人につき五万円
育児支度金：避難中に本市で出産した方一人につき五万円

◆ 生活福祉資金緊急小口資金(特例)貸付
○ 貸付金額 原則十万円以内
（貸付利子 無利子、据置期間 一年間、償還期間 二年間、連帯保証人 不要）

○ 対象世帯 以下全てに該当する世帯
（①「災害救助法の適用となつた地域及び被災したため特例措置が必要な地域」に住所を有し、当座の生活費を必要とする世帯
②山形県内に当分の間居住予定の世帯
③継続的に連絡が取れることが見込まれる世帯
④身分を証明するものにより本人確認ができる世帯）

○ 現金書留の場合
・送付先 〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号新霞が関ビル5階
社会福祉法人 中央共同募金会
(封筒に「救助用」と明記して下さい)

※振込み手数料・郵送料は無料です
◆ 東北地方太平洋沖地震等におけるボランティア・NPO活動支援のための募金の募集
中央共同募金会では、被災地で活動するボランティア団体・NPOを支援するための募金を平成二十五年三月三十日までの間、募集しています。

○ 寄附金の振込み先
・銀行名 三井住友銀行
・支店名 東京公務部(096)
・口座番号 普通預金0162085
・口座名義 社会福祉法人 中央共同募金会 災害ボランティア口

※この募金は税制上の優遇が認められます。
詳細は、山形県共同募金会鶴岡市支会へ

次のとおりです。

○ 名称 「東北関東大震災義援金」
○ 振込みの場合
・金融機関名 ゆうちょ銀行
・郵便振替口座 00170-6-518
・名義 中央共同募金会

○ 現金書留の場合
・送付先 〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号新霞が関ビル5階
社会福祉法人 中央共同募金会
(封筒に「救助用」と明記して下さい)

※振込み手数料・郵送料は無料です
◆ 東日本大震災避難者への経済的支援について
市社協では、市内に避難してきた方の生活を支援するため、支度金支給及び生活福祉資金貸付の相談に応じています。

○ 対象者 北海道・青森・岩手・宮城・福島・茨城・千葉県に住所を有し、鶴岡市に避難し、避難世帯台帳に登録されている世帯
の精神状態にあることが分かりました。行政職員・市民など様々な立場の人々が活動していましたが、震災直後は体制が整つていなかった場合も多く、助けたいという気持ちは皆同じでも、何も考えずに行動してしまうと、被災者を傷付けたり、現場の迷惑になる場合もあるということを学びました。状

◆ 東日本大震災避難者生活支援事業(市補助)

義援金、災害ボランティア・NPO支援募金の募集について

◆ 東日本大震災義援金の募集

山形県共同募金会鶴岡市支会では、九月三十日まで、市社協事務局および各福祉センターで義援金の受付を行つております。

義援金は山形県共同募金会を通じて中央共同募金会に送られた後、配分委員会の決定によって、被災者へ直接届けられます。

なお、中央募金会へ直接送金する場合は、

詳細は、山形県共同募金会鶴岡市支会へ
電話 ○一三五(一一)〇〇五三

「被災地支援の一コマ」

東日本大震災という未曾有の大災害で被災された皆様にお見舞い申し上げますとともに、犠牲となられた多くの方々のご冥福を心からお祈りいたします。

市民の皆さんからは募金への協力、救援物資の提供、被災地でのボランティア活動等多くのご協力、ご支援を立つてもいられない、何とか力になりたいという気持ちがひしひしと伝わってまいります。

Aさんという石巻市在住の鶴岡市に縁のある方が、鶴岡市と鶴岡市社協に現地の窮状を切切と訴えられました。今、必要な物は石油ストーブ、スコップ、ゴム手袋等、かたづけを手伝ってもらいたい、特に眼科・小児科の医院を早急に再開したい等でした。これは現地の状況を良く知っている人の話だけに市もボランティアセンターも即反応しました。

四月十日には酒田市のボランティアグループとも協力し二十五名、石油ストーブ、スコップ等の物資を積み込み込んだトラックとマイクロバスで朝五時三十分に市総合保健福祉センター（にこふる）を出発、石巻市八幡町へ二回保百五十キロメートルの行程。ガンガンに固くなつた泥のかき出しは相当の重労働。Aさんはじめ地域の皆さんもボランティアに参加しようとした。市職員の皆さんもボランティア活動についている。このように現地の状況をボランティアセンターにつなぐ人がどうしていきます。Aさんの話では一週間に一回ぐらいずつ来ていました。市職員の皆さんもボランティアに参加しようとしますし、この輪がもつと広がればいいなと思っています。Aさんの話では、「やるならきつちり」などといふ言葉で大活躍。

鶴岡市社会福祉協議会 会長 富樫 毅



ご寄付ありがとうございました

みなさまのご厚志に心より御礼申し上げます。

(平成23年2月21日から平成23年4月20日までの寄付を掲載しています)

★一般社会福祉事業へ

◎鶴岡福祉センター

- | | |
|------------|------------|
| ・浦川 智子 様 | フェイスタオル70枚 |
| ・恩田 隆嗣 様 | 10,000円 |
| ・加茂婦人会 様 | 30,000円 |
| ・鶴岡市朝市の会 様 | 9,000円 |

◎藤島福祉センター

- | | |
|----------------|--------|
| ・雪灯籠まつり実行委員会 様 | 3,346円 |
|----------------|--------|

◎羽黒福祉センター

- | | |
|-----------------|--------|
| ・鶴岡市立羽黒中学校生徒会 様 | 6,393円 |
| ・鶴岡市立羽黒第二小学校 様 | |
| 壁掛け電波時計1台 | |
| ・株皆川運動具店 様 | 帽子12個 |

◎櫛引福祉センター

- | | |
|----------|-----------------------------|
| ・佐藤 男 様 | チャイルドシート用ヘッドレスト・ネッククッション各1個 |
| ・佐藤 正男 様 | 14,896円 |

◎温海福祉センター

- | | |
|----------|---------|
| ・本間 イト 様 | 30,000円 |
|----------|---------|

★デイサービスセンターたかだてへ

- | | |
|----------------|------------|
| ・下川下老人クラブ妙寿会 様 | ちらしのごみ箱、手紙 |
|----------------|------------|

★地域福祉センターなえづへ

- | | |
|-----|---------|
| ・匿名 | こいのぼり一式 |
|-----|---------|

★デイサービスセンターおおやまへ

- | | |
|----------|--------|
| ・石塚 芳郎 様 | 3,000円 |
|----------|--------|

★大山児童館へ

- | | |
|-----------|----------|
| ・長谷川 玲子 様 | 古絵本 155冊 |
| ・匿名 | 竹馬4台 |

★くしひきデイサービスセンターへ

- | | |
|-------------|-----------|
| ・西片屋老人クラブ 様 | タオル・綿布56枚 |
| ・難波 清 様 | 猫やなぎ・亀の置物 |

★くしひき保育園へ

- | | |
|-------------|-------------------|
| ・櫛引地区 婦人会 様 | タオル90枚・ウエス用タオル10枚 |
| ・菅原 剛 様 | ほうれん草7束 |

★手をつなぐ親の会様へ(特別指定寄附)

- | | |
|----------|----------|
| ・恩田 隆嗣 様 | 100,000円 |
|----------|----------|

（災害ボランティア）
元振興まで、活動のベクトルは『明日へ』
I

踏み出したばかり地だ
出しにこれらをコラボ
して実施予定。
これからをこれからを
傲慢、一緒にやる、ここで
してあげる、なんでも
「やるならきつちり
ね。」と、震災以来握ら
れくらいがいい感じ。
「やらんと! プロだから
つていいといふハサウエ
ミで大活躍。

今後は週イチの炊き
出しにこれからをコラボ
してあげる、なんでも
「やるならきつちり
ね。」と、震災以来握ら
れくらいがいい感じ。
「やらんと! プロだから
つていいといふハサウエ
ミで大活躍。

「異業種NPO・
名取レボ」

四月六日、宮城県の
名取市第一中学校で
『ヘアカット・ネイル
・ケア・ミニライブ・
ボランティア』のコラボ
開催。名付けて『スラフル
タンド・バイ・ミ』

おだがいさま

第34号

平成23年5月15日発行

発行部数 49,500部

編集・発行

社会福祉法人 鶴岡市社会福祉協議会

鶴岡市泉町5番30号（にこふる2階）

TEL 24-0053 FAX 23-9110

ホームページ <http://www.shk01.jp/>

藤島福祉センター TEL 64-3100

羽黒福祉センター TEL 62-4534

櫛引福祉センター TEL 57-5300

朝日福祉センター TEL 53-2795

温海福祉センター TEL 43-3266

この広報誌は、赤い羽根共同募金の配分を受けて発行しています。



おだがいさま

6